

砂防設備修繕設計業務委託 仕様書

第1条 目的

本業務は、「福島県砂防設備長寿命化計画【年次計画編】」に基づき、健全度評価が C2（要対策【損傷大】）、C1（要対策）または B2（経過観察【高頻度】）である既設砂防堰堤について、損傷の拡大を防ぎ、設備の延命化を図るための補修の詳細調査設計を行うことを目的とする。

第2条 適用範囲

- 1 本業務仕様書は、砂防設備調査で損傷が確認された既設砂防堰堤の詳細調査及び補修のための修繕設計業務委託（以下「業務」という。）に適用する。
- 2 本業務は、構造計算が不要な漏水及びクラックの補修に適用するものとする。
- 3 本業務の履行にあたっては、本仕様書に従うほか、福島県土木部制定の共通仕様書（業務委託編Ⅰ・Ⅱ）（以下「共通仕様書」という。）によるものとする。
- 4 本仕様書及び共通仕様書に定めなき事項がある場合、又は設計図書等に疑義を生じた場合は、発注者との協議によるものとする。

第3条 調査設計箇所

- 1 詳細調査：本堰堤、垂直壁工、側壁護岸工
- 2 補修設計：構造計算が不要である漏水・クラック

第4条 業務内容

- 1 調査計画
 - ・既存資料を収集・整理し、調査方法及び足場設置計画を検討し調査計画書を作成する。
- 2 詳細調査
 - ・既設堰堤の高さや幅等について確認する。
 - ・既存資料との整合性を確認しながら、漏水及びクラックによる損傷状況について位置や範囲を確認するとともに、長さ・幅・深さをスケール等により実測し数量をとりまとめる。
 - ・詳細調査の結果に基づき堰堤一般図及び堰堤損傷図を作成する。
- 3 補修設計
 - ・損傷箇所の対策工法の選定、図面作成、数量算出、概算工事費の算定、照査及び報告書の作成を行う。
- 4 施工計画
 - ・施工要領、施工計画図（数量算出含む）、仮設計画等を作成する。

第5条 貸与資料

- 1 砂防指定地台帳及び砂防設備台帳
- 2 過年度点検資料

その他、受注者は本業務に必要な資料等の貸与を発注者に求めることができる。ただし、発注者は業務上必要と認められた場合のみ資料等の貸与を行うものとする。

第6条 作業上の注意点

受注者が詳細調査のため他人の土地に立ち入り又は一時使用する場合は、必ず地権者の同意を得ること。

第7条 損失補償

作業の必要上生じる土地使用、伐採、踏み荒らし等のための物件の補償は、特に指示しない限り受注者の責任において処理しなければならない。この場合、伐採物件の除去は最小限にとどめること。この規定を守らなかったために生じた補償は全て受注者の責任とする。

第8条 打合せ等

本業務を円滑に実施するにあたり、業務着手時、中間時1回、成果物納入時の計3回の打合せ協議を行うものとする。また、その他必要に応じて、適宜打合せを実施する。

第9条 成果物

成果物は以下のとおりとする。

- (1) 報告書 電子データ1式
- (2) その他監督員の指示するもの 電子データ1式

第10条 管理技術者

- 1 本業務の管理技術者は、「福島県土木部共通仕様書（業務委託編）」第1107条及び第1107条「総則の運用」に基づくものとする。
- 2 本業務では、「福島県土木部共通仕様書（業務委託編）」第1107条「総則の運用」に以下の資格を追加する。
 - (1) ふくしまME（防災）（ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会）
 - (2) ふくしまME（保全）（ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会）
 - (3) 砂防・急傾斜管理技術者（（公社）砂防学会）
 - (4) コンクリート診断士（（公社）日本コンクリート工学会）
 - (5) 一級構造物診断士（（一社）日本構造物診断技術協会）
- 3 ただし、ふくしまME（防災）、ふくしまME（保全）、コンクリート診断士、一級構造物診断士の資格保有者を管理技術者として配置する場合は、砂防設備修繕設計業務における担当技術者として履行実績を1件以上有するものとし、発注者へ管理技術者の経歴書を提出する際に、該当業務における業務実績情報システム（以下、「テクリス」という。）の業務実績情報の写し等を併せて提出すること。
- 4 第3項の履行実績について、提出書類に虚偽の記載をした場合においては、工事等の請負契約に係る入札参加資格制限を行うことがある。
- 5 受注者は、第2項に記載している民間資格保有者を管理技術者へ配置した場合は、

テクリスの業務概要に「民間資格活用：〇〇〇」（〇〇〇は、活用を図った資格）と記載すること。